

[第 15 期] 平成 25 年 (2013 年)

事業報告書

平成 25 年 1 月 1 日から 9 月 30 日

公益財団法人日本数学検定協会

The Mathematics Certification Institute of Japan

<http://www.su-gaku.net/>

## 平成 25 年事業報告

### 目 次

#### 総合報告

- I 数学に関する講習会の実施
- II 数学に関する検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行
- III 数学に関する調査研究
- IV 数学学習に関する普及啓発活動
- V 数学に関する出版物の刊行及び情報提供
- VI その他の事業（関係諸団体との情報交換及び連絡提携）

## 平成 25 年事業報告

### 総合報告

われわれの使命は信頼性と有用性が高く、学習指針として広く認められる検定事業を実施し、得られた知見を社会に還元することを通じて、世界中の人々の生涯にわたる数学への興味喚起と数学力の向上に貢献することである。

当協会は平成 25 年 10 月 1 日をもって公益財団法人となった。これまでの公益事業の展開に加え、コンプライアンスやガバナンスを強化してきたことが認められたものと考えている。なお、当協会の公益財団法人への移行を事業年度途中で行ったことから、財団法人（特例民法法人）としての最後の事業報告は平成 25 年 1 月から 9 月までのものとなることを予めご報告する。

さて、国内の 1 月から 9 月までの「実用数学技能検定」受検者数は合計で 20 万人に近づいた。おそらく 12 月までの集計であれば 30 万人を超えることは間違いない状況である。ただし、中・高校生を取り巻く教育環境は自治体によって変わってきており、受検者数の増減に影響が出てきている。一方で小学生の受検者が伸びており、本年 4 月から 6 級以下の呼称を「算数検定」としたことが功を奏したと捉えている。

つぎに、ビジネス数学関連のコンテンツ（ビジネス数学検定、講座、e-learning）の利用者数は 9 月末日時点で昨年を大幅に超え、1,938 人（昨年は年間で 703 人）となった。大学や企業へのアプローチを積極的に行ったので、来年度にはさまざまな企業や個人が利用するようになると考えている。

講習会については、親子を対象としたものを多く開催してきたが、各地の数学コーチの方々の協力を得ながら大阪などでも定期的な数学学習講座を開催することができた。

さて、当法人の使命としては広く国民の方々に数学・算数への興味をさらに深めてもらい、そのすそ野を広げていくことが大事な要素の 1 つである。それを実現するための事業として、「数学川柳・数学俳句」といった一風変わったイベントを昨年度から実施したが、今年は短歌も加え、数学と文学を繋ぐ文化的な催しとして一層深まった。また、数学を得意とする中・高校生の学習意欲をさらに高めるために毎年開催している「数学甲子園」（全国数学選手権大会 団体戦）の本選を、本年 9 月にその第 6 回大会を開催した。今回の大会は、昨年のほぼ倍となる 159 校 291 チーム 1,206 人が参加し、各地の強豪校が出場するなか、愛知県の東海高等学校が優勝し、これまでと同様に東海地域の強さを証明することになった。その他にも幼児を対象にしたイベントや保護者を対象とした講座など、協会として、まさに生涯学習社会をサポートする有意義な活動ができた。

これらの活動を通し、無事に公益財団法人に移行できたことをご報告するとともに、受検者の方々を含め、関係者のみなさまに感謝申し上げます。

## I 数学に関する講座講習会の実施

この事業の公益性は、数学を生涯学習として構築するための社会背景を創るために、数学の学習という観点から、数学の指導者をはじめわが国のあらゆる人たちを対象として、高度技術を支える知的基盤としての数学について、広く全国各地で講習会を実施するという点にある。

葛飾区教育委員会共催で中学生以上を対象に、「1次方程式」「平面・空間図形」「連立方程式」を中心に「みんなの数学講座」を開催した。また、親子対象に地域の教育委員会後援で「かがやく算数・数学講座講習会」を今年も開催した。講習内容は、小学生対象に「整数と計算」「小数」「分数」を、中学生対象に「数と式」「図形」「関数」などの分野を中心に、数学コーチの方々の協力を仰ぎながら、少人数でわかりやすく指導するかたちをとり、毎回好評であった。

講習会の開催日と受講者数は次のとおりであった。

開催日	受講者数	実施場所	内容・状況
1月26日	中学生以上15人	葛飾区亀有地区センター	アンケート調査結果大好評
2月9日	同 14人	同上	同上
2月23日	同 13人	同上	同上
6月29日	親子 149人	葛飾区ウイングパル	同上
7月6日	同 58人	台東区生涯学習センター	同上
7月20日	同 37人	大阪市新大阪丸ビル新館	同上
8月24日	同 40人	愛知県ウイングあいち	同上
9月7日	同 37人	神戸商工貿易センター	同上
9月28日	同 47人	岡山県総合福祉会館	同上

講座講習会には計410人の参加を得た。

講演会等の実施は次のとおりであった。

開催日	講演内容	受講者数	実施場所
1月26日	たしてわるだけじゃない平均のおはなし	中学生以上15人	葛飾区亀有地区センター
2月9日	三角形と円の不思議で美しい関係	同 14人	同上
2月23日	効果的なグラフの使い方	同 13人	同上

上記の講演会に合計42人の参加があった。

この他、数学コーチによる数学講座が、秋葉原をはじめ大阪などで開催したが、のべで280人を超える参加者を得ることができた。

## II 数学に関する検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行

この事業の公益性は、ほとんどの国民が学んでいる数学という学科で、学習指標としての検定を全国津々浦々で実施しているので、年齢や経験を問わずありとあらゆる人たちが、自由に参加できる生涯学習の場を提供できるという点にある。

平成 25 年度 1 月から 9 月までの「実用数学技能検定」（数学検定・算数検定）受検申し込み者総数は、国内が 198,051 人、海外（日本人学校、補習校を除く）が 1,841 人、合計 199,892 人となった。まだ、9 か月分の受検者数なので前年との比較はできないが、実施団体として塾が増えてきていることや、4 月から進めてきた 6 級以下を「算数検定」として告知したことによる小学生の受検者増が特筆すべき点である。

「数学検定・算数検定」月別国内申し込み者数・受検者数・合格者数は、次のとおりである。

国内の平成 25 年 1～9 月までの受検者数

検定月	受検者数（人）	検定月	受検者数（人）
1 月検定	14,508	6 月検定	29,019
2 月検定	46,343	7 月検定	44,063
3 月検定	22,759	8 月検定	19,992
4 月検定	19,584	9 月検定	896
5 月検定	887		
合計			198,051 人

※受検者数には申し込み者数を表示している。海外での日本人の受検者は含む。

数学の技能度の顕彰については、受検者に対する個別成績票の内容が充実し、各問題の正誤についても受検者が確認できるようになった。さらに団体受検を実施していただいた団体の検定監督あてに、その団体での受検者全員の正誤表をまとめてお知らせするなど、サービス向上につながる運用が可能となった。

また、今年で第 21 回を迎えた「実用数学技能検定グランプリ表彰式典」を、3 月 25 日、東京大学伊藤国際学術研究センター・伊藤謝恩ホールで開催した。表彰された個人・団体の数は、個人賞として金賞が 145 人、会長賞 11 組 17 人、生涯学習功労賞 128 人、団体賞として金賞が 71 団体だった。

最後に、「ビジネス数学」関連の利用者は 9 月の時点で昨年の 703 人を大幅に更新し 1,938 人となった。企業だけでなく大学での実施も含まれており、今後、「ビジネス数学」に関する学習コンテンツなどの需要は、就職を希望する学生へとさらに広まるのではないかと期待ができる。これらのコンテンツを企業や大学が採用しやすいよう、今後も内容を精査し個別に提案しながら、来期につなげる計画である。

### Ⅲ 数学に関する調査研究

この事業の公益性は、数学に関する生涯学習の調査研究を、情報化と国際化という観点から進め、研究成果を21世紀の生涯学習社会に応用し、学習者の多様な要求に応えながら生涯学習社会の一層の発展に貢献しようとする点にある。

検定の採点システムを活用し、地域ごと、団体ごとの答案の分析を簡便に行えるようになった。第232回（平成25年2月15日）検定で坂東市教育プロジェクトとして市内の中学校全4校および小学校全13校が団体受検を実施したが、4級から11級（受検者1865人）までの答案について、市内の子どもたちと全国の受検者の正答率を比較した。また、第234回（平成25年3月9日）検定において、広島県の私立なぎさ公園小学校の6級から11級（受検者470人）の正答率の調査を行った。第240回（平成25年10月5日）検定では、沖縄県の与那原町立与那原中学校の3級から5級（受検者31人）の正答率調査および3級受検者16人の答案の分析を行った。

また、8月に山梨県で開催された「第95回全国算数・数学教育研究（山梨）大会」において、高等学校部会（基礎・自由研究）および幼稚園・小学校部会（基礎・自由研究）で、採点システムを用いて答案分析をした結果について、研究発表を行った。

坂東市 市内全校（中学校4校、小学校13校）

正答率調査 第232回（H25.2.15）4級～11級（受検者 1865人）

広島県 私立なぎさ公園小学校

正答率調査 第234回（H25.3.9）6級～11級（受検者 470人）

沖縄県 与那原町立与那原中学校

正答率調査 第240回（H25.10.5）3級～5級（受検者 31人）

3級受検者分析（受検者 16人）

第95回全国算数・数学教育研究（山梨）大会 研究発表（8/4）

高等学校部会（基礎・自由研究）

「問題作成学」

「採点から見た数学検定受検者の解答傾向」

幼稚園・小学校部会（基礎・自由研究）

「実用数学技能検定（数学検定）の答案の考察2」

#### IV 数学学習に関する普及啓発活動

この事業の公益性は、不特定多数の人が参加できるイベントで、いくつかの共通の課題やテーマを通して、子どもと大人が一緒になって楽しんだり、生涯学習の実践をしながら普及啓発活動をしていく点にある。

今年、数学学習に関する普及啓発活動の一環としてさまざまなイベントを開催した。

老若男女を問わず、数学が話題になるようなイベントとして3月14日に「第2回数学川柳&数学俳句&数学短歌」を開催した。選考委員長には作家の森村誠一先生をお迎えし、「数」「算数」「数学」というキーワードやイメージを詠み込んだ「数学川柳」「数学俳句」に加え、今回から「数学短歌」も募集したところ、全国から15,232句の作品が寄せられ、大賞には「後悔は 180度 回れ右 (数学川柳)」「母逝きて 幾何学模様の 鱗雲 (数学俳句)」「けがをして 運ぶ姿は 分数だ 分母はあなた 分子のわたし (数学短歌)」が選ばれた。

この他、3月14日を中心に3月を算数・数学強化月間として「Marching Math Math (マーチングマスマス)」と名づけ、さまざまな世代に算数・数学を楽しんでもらえる企画を開催した。例年どおりに受検者や実用数学技能検定実施団体の中からとくに優秀な成績だった個人や団体に対して実用数学技能検定グランプリ表彰式典を開催したことに加えて、小学生とその保護者を対象とした参加型イベント「おもろふしぎラボ～カズとカタチはおともだち～」や、理系の女子を対象とした学習・講演会「Rikejo☆モデル体験～数学で美人になる～」などである。

さらに、5月には、社会人を対象とした「社会人数学選手権大会」、8月には「算数ミュージカル」、9月には新潟の関川村立関川小学校でNPO法人日本オリンピック協会と連携したイベント「算数体感プログラム」を行った。

昨年に引き続き、数学を単元別に学びたいという大人を対象に、数学コーチャーによる数学学習講座を開催したが、この他に数学コーチャー協力のもと、一般の方々を対象に数学をもっと身近に感じ、気軽に、そして楽しく学べる「数学カフェ」を個人受検時の東京会場で開催することができ、参加者にも好評であった。他の会場でも開催していく予定である。

この他の活動として、昨年立ち上げた「数学検定ファンサイト『数学問題館』」を「数学検定・算数検定ファンサイト」としてさらにバージョンアップを行った。数学検定 Facebook ページとの連動を強化することで、SNS を活用した普及啓発も可能となった。その結果、マイナビニュースというサイトでは、ファンサイトの記事を再利用した「世界を彩る数学レシピ」というコーナーが立ち上がるなど、他社とのコラボレーションが可能となった。

## V 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供

この事業の公益性は、数学の学習者はもとより広く一般の人たちに、学習材や情報誌あるいはネットを用いて学習情報を提供したり、学習経験者のさまざまな声を、新たな学習活動を起こそうとする人たちに届けて、生涯学習の輪を広げていこうとする点にある。

今年4月にホームページをリニューアルし、受検者や指導者にとって情報が得やすい構造に変更することができた。

出版については、昨年、過去問題集などを多く出版した関係で、今年の新刊としては他の出版社も含めて4冊程度となった。その一方で、本年は、過去問題集はもちろん、各階級における数学の要点をまとめた学習書を発刊するための準備期間となった。

他の取り組みとしては、高知新聞や日本海新聞の子ども向け学習コーナーや子ども新聞に算数検定の問題を提供した。

## VI その他の事業（関係諸団体との情報交換及び連絡提携）

この事業の公益性は、知識層との交流を通して、数学の生涯学習とは何か、数学の学習とは何かなどの疑問に答えながら、生涯学習の概念を拡張していく点にある。

「日本数学教育学会全国大会」（山梨県）では主催者に手提げ袋を提供し、また、資料展示することによって小・中・高校部会でさまざまな先生と交流することができた。さらに、各地の数学関連研究会で検定の過去問題や資料の配布を行ったほか、「リメディアル教育学会」や「初年次教育学会」にもブースを設けて関係者とのコミュニケーションを図った。

以上に加えて、タイのプーケットで行われた「第6回 東アジア数学教育国際会議（ERACOM-6）」での出展を通して、海外の数学教育関係者とのネットワーク構築を行うことができた。



## 平成 25 年度事業報告 附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

平成 25 年 11 月  
公益財団法人日本数学検定協会